

話題作ついに登場!!

信州映画伝列人

田中要次

旅人

.....(HERO／木曽町)

信州人映画監督

降旗康男(鉄道員(ぼつばや)／松本市)
後藤俊夫(マタギ／伊那市)

熊井 啓(黒部の太陽／安曇野市)

崔 洋一(月はどちらに出ている／佐久市)

山崎 貴(ALWAYS三丁目の夕日／松本市)

古厩智之(ホームレス中学生／塩尻市)

飯田譲治(ドラゴンヘッド／諏訪市)

俳優・田中要次がめぐる映画王国 信州
フィルムに込めた信州人の心意気

5.17(月)午後6:54 OA



企画:abn新番組制作若手委員会

abn

信州人の議論好きは

よく知られているけれど

言葉に勝てるのが

スクリーンに映し出される

映像の力だと信じていた――

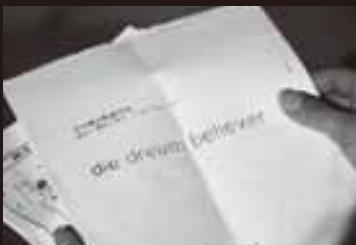
降旗康男監督(鉄道員(ぼっぽや)／松本市出身)

信州人 映画伝列

古厩智之監督(示一ムレス中学生／塩尻市出身)
僕が育ったのは
無機質な新興住宅地で
遠くに見えるアルプスの山に
閉じ込められたような土地で
学生時代を過ごした――

多くの名作・話題の映画が信州人映画監督の手によって生まれてきた。

それぞれの監督の中にある「ふるさと信州」は、作品のどこかにひっそり映し込まれている。監督たちの映画作りへのこだわりや「生まれ育った信州」と「映画」との関わりはどんなところにあるのか。同じく信州人で俳優の田中要次が、監督や作品ゆかりの地をめぐり信州人監督の素顔に迫る。



SHORT MOVIE

映画館まで片道1時間。2本立てを見たら、もう夕方――
おまえはここで、つまらないジジイになるんだよなあ

旅人・田中要次が自らメガホンを手にショートムービーを作成。自身の青春時代を投影させた青年が
「信州」を舞台に小さな旅に出る。夢から一步踏み出すとき、青年が見るふるさとの風景とは…。



田中要次(俳優／木曽町出身)

1982年に国鉄に就職。1987年、国鉄の分割・民営化によりJR東海の社員となり愛知県へ。それ以来、映画館通いに拍車がかかり、各地の自主上映活動などにも参加。様々なエンタストたちとの交流を深める中で、山川画人監督「SEEK AND FIND／佐木伸説」(1989)に起用される。その後、サラリーマン生活から脱線し東京へ。竹中直人監督「無能の人」(1991)に照明助手としての参加から始まり、録音助手、付き人、ドライバーなども経験しながら、同監督「119」までの間に数多くの作品に携わり、スタッフ兼業での悶絶映画道を学ぶ。(自身のウェブサイトより抜粋)



俳優・田中要次がめぐる映画王国 信州 フィルムに込めた信州人の心意気

5.17(月)午後6:54 OA



PRESENT 番組を見てゲットしよう!

信州まつもと空港発着 JAL 航空チケット5名様

※9月1日以降の発着便に限ります

詳細はコチラ ⇒ <http://www.abn-tv.co.jp>